

ステークホルダーとのコミュニケーション

アンモニア燃料アンモニア輸送船の建造決定

IPSが参画している「アンモニア燃料船国産エンジン搭載船舶の開発」において、アンモニア燃料船アンモニア輸送船(AFMGC:Ammonia-fueled Medium Gas Carrier)の建造が決定しました。IPSは補機関の開発を担います。

本プロジェクトはIPSを含む日本郵船株式会社、株式会社ジャパンエンジンコーポレーション、日本シッパード株式会社と協力機関である一般財団法人日本海事協会の5者で国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)によるグリーンイノベーション基金事業として進めています。

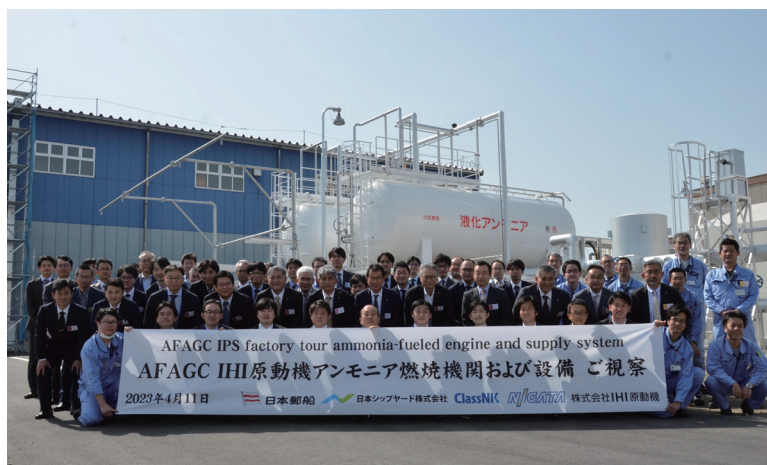
1月25日に本船の建造決定について上記5者による共同記者会見が行われ、IPSからは村角社長が登壇しました。船用業界他40社以上のメディアが参加され注目の高さを再認識できました。

記者会見後には、日本郵船主催による決起会が開催されました。関係各社代表者からは当社の開発成功に向けてエールを送っていただき、当社担当者の士気が一層上がりました。

本船竣工予定の2026年11月に向けて、関係者一丸となって取り組んでまいります。



AFMGC イメージ 出典:日本郵船株式会社



AFMGCコンソーシアム
太田工場視察



記者会見登壇者

左からNSY前田社長、JENG川島社長、
NYK曾我社長、IPS村角社長、NK坂下会長

九州電力送配電 新種子島発電所5号機(18V28AHX)運転開始

昨年10月27日、鹿児島県種子島、九州電力送配電(株)の新種子島発電所5号機ディーゼル発電設備(18V28AHX × 6,000KW)が完成し商用運転が開始されました。

新種子島発電所は1～5号機までIHI原動機(IPS)製のディーゼル機関が納入され、さらに今年12月運転開始予定の6号機(18V28AHX × 6,000KW)の増設工事を進めております。

近年はカーボンニュートラルとして再生可能エネルギー(太陽光)の普及により、日中における内燃機の発電出力は低負荷出力となるため、低負荷出力対応可能で低燃費のIPS製エンジンが採用され、島内電力の安定供給に寄与しています。

また、IPSはアフターサービスも含めライフサイクルを通して、お客様および地域の皆様に貢献していきます。

